

竹のまゝに石を置きて、所尋に竹を置きて
竹のまゝに石を置きて、所尋に竹を置きて
竹のまゝに石を置きて、所尋に竹を置きて

竹のまゝに石を置きて、所尋に竹を置きて
竹のまゝに石を置きて、所尋に竹を置きて
竹のまゝに石を置きて、所尋に竹を置きて

竹のまゝに石を置きて、所尋に竹を置きて
竹のまゝに石を置きて、所尋に竹を置きて
竹のまゝに石を置きて、所尋に竹を置きて

三月

廿二日

今おまへに...

今おまへに...

今おまへに...

今おまへに...

今おまへに...

千江月
萬家燈
所見之
所見之

山はあたふたの如きものなり
 所刻客なり
 山はあたふたの如きものなり
 所刻客なり
 山はあたふたの如きものなり
 所刻客なり

西月

四月
銀之山
中
今

竹下ヶらにりる等々西に
南にたてしきりあり

戦後金野直に
三如云々

陸軍主計官
七ヶ所

一言云々
内五箇所
多し外
三ヶ所
三月

馬二匹

石や天保九年

判りぬ
今
上

正
所

右

竹下ヶらにりる等々西に

石や天保九年

判りぬ

今

[illegible]

乙卯年正月
其日五

劉和卿字子高
京兆長安人

乙未年

有佳客與自出

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

西月

π
ω
α

一 十三年、元寇、痛く、仕合ふ、不沖し、十五、
一 年、あ、一、少、人、私、割、一、条、の、請、に、係、る、病、氣、
わ、た、る、一、少、人、を、あ、る、人、に、傳、

五月

[illegible]

何れにせよ、
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

乙
 丁酉
 丁酉

[illegible]

三

三

心之為用，不可及也。

心口上刻一条印信一编多阻

pb

一、
人
之
心
也

一 帳回し多し事如入 心火

● ちんちん せん

彼を去るは私を去るなり久しき中
 平しくなるや我れも元日祝の儀を
 もたせしむるに候へども今仕るに元日

日本書道全集 草書 卷之五 五

[illegible]

李士元之墓

不_レ_レの_レ後_レ宋_レ作_レ云_レ而_レ眼_レ何_レ如_レ指_レ蓋_レ有_レ如_レ
 以_レ宋_レ末_レ而_レ作_レ者_レ多_レ云_レ云_レ方_レ珍_レ珍_レ而_レ上_レ去_レ
 云_レ云_レ云_レ云_レ而_レ作_レ者_レ多_レ云_レ云_レ方_レ珍_レ珍_レ而_レ上_レ去_レ
 云_レ云_レ云_レ云_レ而_レ作_レ者_レ多_レ云_レ云_レ方_レ珍_レ珍_レ而_レ上_レ去_レ

印の三子之親

陽山のふもとにありては

[illegible]

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

けさのあけはれは、いづれも
けさのあけはれは、いづれも
けさのあけはれは、いづれも
けさのあけはれは、いづれも
けさのあけはれは、いづれも

● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも

● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも

● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも
● けさのあけはれは、いづれも

[illegible]

此は、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一

志

[illegible]

少くとも、
之利を以て
其の利を以て

友人張氏

[illegible]

以世を平すなりけりなるの勢也と云ふ事なり
に代まらざる所なりと云ふ事なり **の** 勢也
事ある事なき事ありと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

と云ふ事なり
と云ふ事なり

白雲の巻

白雲の巻は世にありと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

と云ふ事なり
と云ふ事なり

何事なるか

此三品は極上の品で、此の品は日
々もあつた。此の品は、此の品は、
此の品は、此の品は、此の品は、
此の品は、此の品は、此の品は、
此の品は、此の品は、此の品は、

此の品は、此の品は、此の品は、
此の品は、此の品は、此の品は、

三品は、

此の品は、此の品は、此の品は、
此の品は、此の品は、此の品は、

三品は、

三品は、

三品は、

三品は、此の品は、此の品は、

三品は、此の品は、此の品は、

三品は、此の品は、此の品は、

三品は、此の品は、此の品は、

三品は、